
紅い桜

音無 無音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紅い桜

【Zコード】

N5175S

【作者名】

音無 無音

【あらすじ】

それは、それは。桜の綺麗なある日の出来事でした。俺の彼女は、桜のように美しく散つたのでした

「学。お花見行こうよ」

卷之三

彼女 カヤは毎年そんな綺麗な文句で俺を花見は説いていた。
そして、俺の返事はいつも

「勿論だ」

た
た

「リンク飴食べたなー。買って?」

「ん！」
何がいい？

こんな、毎春、毎春の会話さえ楽しかった。

あの日までは。

花見当田
今日は珍しく一日中花見らしかつた。

「暇だろ、それは」

「いいの。だつて、今年で付き合つてから五周年。

ちょっと贅沢しないと」

俺はお前の笑顔だけで十分なのに。

「そつか」

そんな恥ずかしい言葉は心の中に閉じておく。
高校卒業でもしたら、結婚の申し込みでも行こうかな……。
などと、考えていたうちにお花見会場についた。

お互に「リング」飴を買ひ合ひ、
見晴らしのいい高台へ登つた。

こゝは、公園の桜を一望できる秘密スポット。

・・・・・といつても他にもカップルはいるのだが。

「うひやあ、今年も綺麗だね」

お前の方が綺麗だぞ、

などとまたも恥ずかしい言葉を心で抑えつつ

「そうだな」

と頷く。

「あたし、ここの淡いピンクが好き。

その中に違う種類の濃いピンクの桜があつてもうと綺麗」

満面の笑み。

夏には、ひまわり畑にでも行こうかと思う。

そうだ、こいつは昔から綺麗なもの、花が好きだ。

「えへへ。あたし、花大好き。

ねえ、夏にはひまわり見に行こう」

思考が同じだった。ちょっと嬉しかったり。

帰る寸前、

屋台を練り歩きつつ帰った。

「それはおぬしだ」と嘆息を鳴らす。

卷之三

否、桜はあんなに赤くない。

「カヤ・・・・・・・・・・?」

倒れ込んでいた

文獻

カヤの近くこはサイフを

「おい！カヤ！？カヤ！！！」

• • • • • • • • •

声がかすれてて聞き取れない！

- 11 -

男は、春の陽気でうかれ、通り魔殺人を過去多数おこしていたらし
い。

力
ヤ
は

「残念ですが、こちらも精一杯の手は打ちました。」

六
失師

縦内力ヤさんは

「力ヤ・・・・・・・・」
俺はそれ以上耳に入らなかつた。

力ヤがいない学校。

何処と無く寂しかった。

「新野巻！おい、学！」

「え？あー、なんすか」

「オレだよ！お前の親友」

「あー、うん、で、何」

「ひでえ！最近元気ねえじやん？」

「どうしたの？まだ力ヤちゃんのこと？」

「うんせえよ、と俺は無理矢理話を寸断。」

そして、屋上へと上がった。

そこでもまた、親友の声が。
校庭からだ。

「新野巻いー校門見ろー！」

「うん？」

「ー。」

そこには。
桜のような微笑みをしてくれる、
力ヤがいた。

「学ー！ただいまー！」

「ゆ、夢か何かかよ」

「カヤちゃんはなー！」

「リハビリを終えて帰ってきたんだよーー！」

「・・・・・・・・・・・・ツ！」

『綿内カヤさんは

』

「そつか、話は、最後まで、きかねえとな

『綿内カヤさんは、外傷こそ酷かつたものの、
回復出来る道に進んでいます。』

「おかえり。カヤ」

「ただいま。また、お花見行こうね」

桜を、見に。

(後書き)

今回は彼女ちゃん死ななかつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5175s/>

紅い桜

2011年10月3日11時20分発行